

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-269155

(43)公開日 平成6年(1994)9月22日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 2 K 53/00		7254-5H		

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全4頁)

(21)出願番号 特願平5-52023

(22)出願日 平成5年(1993)3月12日

(71)出願人 593049187  
 株式会社 ジェー・シー・コーポレーショ  
 ン  
 東京都千代田区九段南2-2-7 光建北  
 の丸ビル

(72)発明者 清家 新一  
 愛媛県宇和島市大宮町1

(72)発明者 富吉 一純  
 福岡県福岡市中央区薬院4丁目2番9号

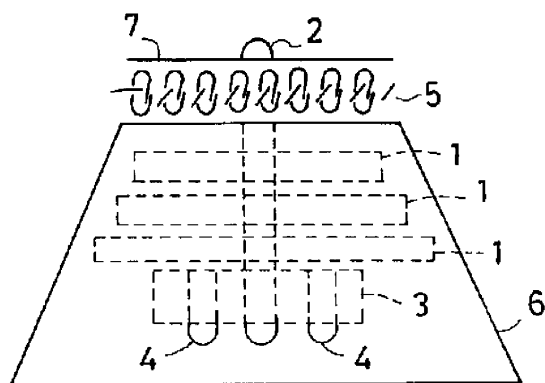
(74)代理人 弁理士 丹羽 宏之 (外1名)

(54)【発明の名称】 発電装置

(57)【要約】

【目的】 外部からの動力や燃料等を必要としないクリーンな発電装置を得る。

【構成】 希土類のトロイダルコアに金合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイル1を三段設け、これらのトロイダルコアの中心を通るように準単極に着磁された棒状の単極磁石2を配置する。また、金の球4を等分に3個埋設した共振ディスク3と、コンデンサコイル1と同様の励磁用のパワーコイル5を設ける。そして、単極磁石2、各コンデンサコイル1及び共振ディスク3により核電気共鳴器及び共振回路を形成し、メビウス巻きしたコイルに発生した三相交流外部に取り出す。



1: コンデンサコイル      3: 共振ディスク  
 2: 単極磁石              4: 金の球

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 希土類元素から成るトロイダルコアに合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイルと、そのトロイダルコアと垂直にその中心を貫くように配置され、全体が略同一磁極に着磁された準単極の棒状の単極磁石と、前記コンデンサコイルと共振する回転電界用の合金の球を埋め込んだ共振ディスクとを備え、前記メビウス巻きしたコイルに発生する電圧を取り出すようにしたことを特徴とする発電装置。

【請求項2】 コンデンサコイルを三段に設け、合金の球を共振ディスクの三等分した位置に設け、コンデンサコイルから三相交流を取り出すようにしたことを特徴とする請求項1記載の発電装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ほぼN極またはS極だけの単極磁石を用いて直流電力あるいは交流電力を取り出すようにした発電装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】直流電力あるいは交流電力を出力する発電装置としては、従来より種々のものがあるが、何れも機械エネルギーを電気エネルギーに変換するような方式となっている。すなわち、外部より動力を取り入れる方式であり、その動力によって回転子を回転させることにより、コイルから電力を取り出すようになっている。また、太陽電池なども一種の発電装置と見ることができ、これは単に光エネルギーを電気エネルギーに変換させているだけであり、大きな出力を得るには装置を大きくしなければならない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の発電装置は上記のように構成されており、外部から動力を取り入れる方式のため、燃料等が必要になり、また回転部分があるので故障が発生しやすいなどの問題点があった。

【0004】本発明は、上記のような問題点に着目してなされたもので、外部からの動力や燃料等が不要で、故障もなく、また環境等を汚染することのない発電装置を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の発電装置は、希土類元素から成るトロイダルコアに合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイルと、そのトロイダルコアと垂直にその中心を貫くように配置され、全体が略同一磁極に着磁された準単極の棒状の単極磁石と、前記コンデンサコイルと共振する回転電界用の合金の球を埋め込んだ共振ディスクとを備え、前記メビウス巻きしたコイルに発生する電圧を取り出すように構成したものである。

【0006】また、上記コンデンサコイルを三段に設け、合金の球を共振ディスクの三等分した位置に設

2

け、コンデンサコイルから三相交流を取り出すように構成したものである。

【0007】

【作用】本発明の発電装置においては、希土類元素のトロイダルコアに合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイルと、準単極に着磁された棒状の単極磁石と、コンデンサコイルと共振する合金を埋設した共振ディスクとを備えることで、複雑な回転子等を用いなくても容易に発電する。

【0008】

【実施例】図1、図2は本発明の一実施例の構成を模式的に示す図であり、図1は側面図、図2は底面図となっている。図において、1はネオジウムやプラセジウムなどの希土類元素から成るトロイダルコアに合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイルで、ここでは金と鉄の合金から成る導線が使用され、三段に設けられている。

【0009】2は全体が略同一の磁極（ここではN極）に着磁された準単極の棒状の単極磁石で、上記トロイダルコアと垂直にその中心を貫くように配置されている。3はコンデンサコイル1と共振（共鳴）する回転電界用の金の球（コンデンサボール）4を埋め込んだ共振ディスクで、チタン酸バリウムやセラミック等の強誘電体により形成されている。5は励磁用のパワーコイルで、コンデンサコイル1と同様希土類のトロイダルコアにコイルを、メビウス巻きしたものが使用されている。6は全体を覆うケース、7は上蓋である。

【0010】上記構成の発電装置は、メビウス巻きしたコンデンサコイル1から三相交流を出力するようにしたものであり、コンデンサコイル1は三相分設けられている。また共振ディスク3の金の球4は、これに対応して3個均等に三等分した位置に設けられている。この金の球4は、金と他の金属との合金であっても良い。

【0011】ここで、上述のメビウス巻きのコイルは、テープをひとひねりして接続してできる所謂メビウスリングの表面に沿って導線を巻回したもので、左メビウス巻きと右メビウス巻きとがある。上記のメビウス巻きの各コイルは、この左メビウス巻きと右メビウス巻きとを反転接続したものとなっている。

【0012】また、磁気柱となる垂直に設置された棒状の単極磁石2は、次のように容易に得ることができる。すなわち、まずネオジウムやプラセオジウムなどの希土類元素からなる棒状の磁性体部材に導線をメビウス巻きし、そのメビウスコイルの両端からパルス電圧を印加してパルス電流を流す。これにより、棒状の磁性体部材にはその長手方向にN-S-NあるいはS-N-Sの順で着磁される。そして、これを三分割して切り離し、中央部を取り除いて両側部のみを接着剤等で接合することにより、N極あるいはS極だけの準単極の高ガウス（数千ガウス）の単極磁石を形成することができる。その際、

3

4

上記メビウスコイルを左メビウス巻きにするが右メビウス巻きするかによって、N極かS極かを選定することができる。

【0013】このような構成とすることにより、各コンデンサコイル1と共振ディスク3とが共振し、図3に示すような波形の交流出力を得ることができる。図3は実験結果を示すもので、出力電圧0.915V、出力周波数5=85KHzが確認されている。

【0014】その際、上記の発電装置は、宇宙エネルギー、つまり単極磁気粒子（ビレンキン粒子、ヒックス粒子）を電気エネルギーに変換してメビウス巻きしたコイルから取り出しているのので、従来のように外部からの動力や化石燃料等が不要であり、故障もない。また、環境等を汚染することがなく、クリーンなエネルギーとなる。

【0015】図4は上述の発電装置を簡単な発電池として構成した場合の構造を一部を破断して示したものである。パワーコイル5、各段のコンデンサコイル1及び共振ディスク3は互いに所定の間隔を持って支柱8により固定されている。また、下側の蓋9は上蓋7と同様ネジ10によって円筒状のケース6に固定されており、ケース6の側面には窓11が設けられている。

【0016】このような簡単な発電池として構成しても、単極磁石2と希土類のトロイダルコアに施したメビウス巻きのコイルとコンデンサボールである金の球4とにより核電気共鳴器と共振回路が形成され、複雑な回転子等を用いなくても容易に交流電力を発生させることができる。

【0017】なお、上記の実施例ではエネルギーを効率良く得るために三相交流回路を構成するようにしたが、金の球4を共振ディスク3の6等分した位置に設けて六相の並列共振回路を構成するようにしても良く、勿論単相の構成としてもよい。

【0018】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、準単極の棒状の単極磁石と、希土類のトロイダルコアに金合金の導線をメビウス巻きしたコンデンサコイルと、共振用の金合金の球を埋め込んだ共振ディスクとを組み合わせて核電気共鳴器と共振回路を形成し、そのコイル発生した電力を取り出すようにしたので、外部からの動力や燃料等が不要となり、故障もなく、また環境等を汚染することがないという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例を示す側面図

【図2】 本発明の一実施例を示す底面図

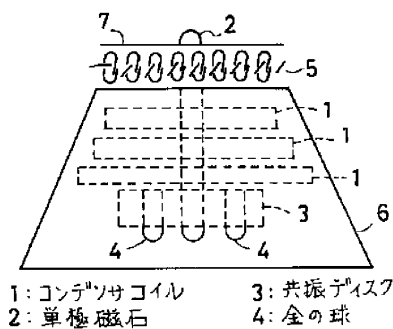
【図3】 一実施例の出力波形を示す図

【図4】 簡易な発電池として構成した場合を示す斜視図

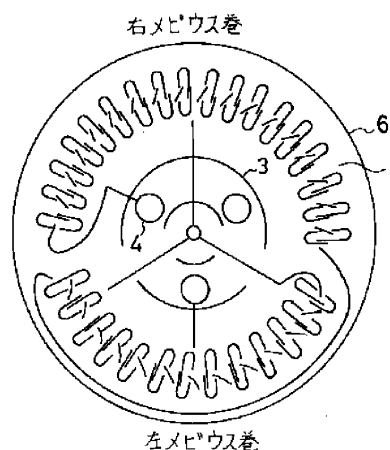
【符号の説明】

- 1 コンデンサ
- 2 単極磁石
- 3 共振ディスク
- 4 金の球
- 5 パワーコイル
- 6 ケース

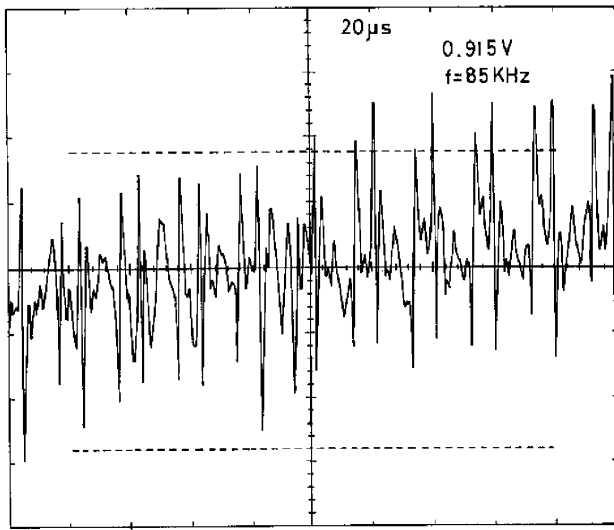
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

